

津山市議会議員

政岡あきひろ

議会報告

津山市の皆様には議会活動などをわかりやすく報告し、市政に関心を持っていただくために発行しています。この報告紙は政務活動費で発行しています。

ごあいさつ

津山市民の皆様、明けましておめでとございます。旧年中は、大変お世話になりました。本年もよろしくお願いいたします。

本当に昨年（令和二年）は、私達がこれまで経験したことのないような、厳しい試練の年となりました。新しい年は、穏やかで明るい年になるよう心から祈りたいと思います。

とはいえ、この議会報告を書いている時点で画期的な特効薬が開発されたという情報はあり



ません。しばらくは、感染症予防に留意しながら経済活動を模索する、新たな生活様式を実践していかなければならないのだと思います。

津山市においても、国や県の動向を捉えながら、執行部と議会が力を合わせて市民のための感染症防止策と社会・経済活動の支援に取り組まなければなりません。私も、そのことに一生懸命に取り組んでいきたいと考えています。

さて、「政岡あきひろの議会報告」も今回で二十三号となりました。この議会報告は、一年に四回開かれる津山市議会の閉会ごとに作成しています。新聞や広報誌などでは伝えられない、リアルな津山市議会の様子や、議員としての私の活動について、できるだけ解りやすくお知らせするため作成しています。そのような点を十分にご理解いただき、ご高覧いただければ幸いです。

議案概要

令和二年十二月議会では、県の補助事業の内示に伴う調整、職員の新陳代謝や退職等に係る人件費の調整、新型コロナウイルス感染症対策に関する事業等により編成された第五次補正予算を中心に、審議が行われました。一般会計の補正予算額は五億五千七百六十六万一千円の増額で、補正後予算額は六百四億七千四百八十八万八千円です。特別会計では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、企業会計では、下水道事業会計、水道事業会計において補正が行われました。

質問内容

- ①市長の施政方針（現状認識と将来展望）コロナ禍中とコロナ後を見据えたまちづくりのあり方。
- ②新型感染症を踏まえた産業振興（観光施策）のありかた。

①DXの推進

新型感染症対策を踏まえた、コロナ禍中とコロナ禍収束後におけるまちづくりのあり方については、例えば本市の基幹となるまち・人・しごと総合戦略のような施策であっても大胆に見直す必要に関する提言を行いました。

さらに、新たな生活様式や働き方改革に資するためDX（デジタルトランスフォーメーション）

を促進することの意義と重要性を提言し、そのために早期の通信環境整備を求めました。そのうえで、DXの積極的な活用により、行政コストを圧倒的に縮減し、浮いたお金を住民サービスに回すことを提言しました。またDXの促進は、現在先進的な取り組みが模索されている、教育分野においても多くの可能性が期待できることを指摘しました。

具体的な例を上げますと、令和二年十月十九日に四例目の感染者が出てから連日のように感染者が発生する状況を受け、十月三十一日に開かれた第二十回コロナ対策本部会議で出された市長メッセージに合わせ、津山市連合町内会から各町内会長あてに、新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底が呼びかけられました。

この時、一部の町内会長さんから、この要請文に添付された自粛要請のチラシは大変効果的であり、回覧などでは機を逸するので、全戸配布するための枚



▲裏面に続く

数を提供して欲しいという要望がありました。事務局からは予算の都合などを理由に提供されませんでした。

このような場合、紙ベースのチラシはホームページやSNSを見ない、或いは見られない人達への情報提供や周知徹底という意味で大変効果的です。私は、DXの推進でペーパーレス化を促進して浮かせたお金を、逆に紙ベースの資料が効果的な分野に回すことを提言しました。

② 観光施策

また、観光に関する質問の中では、「春は津山」で鶴山公園を訪れた観光客に対して市内の桜にまつわる観光地を載せたチラシを配り、「せっかくなここまできられたのなら、こんなところもありますよ」ともう一押しアピールすることの重要性を訴えました。さらに、春は桜や花に関するもの、秋は紅葉やお祭りなどに絞って、提示することの大切さについても質しました。

また今回は、本市の観光資源としての作楽神社の重要性も訴えました。作楽神社にまつわる忠義桜や児島高德の歌は、かつて文部省唱歌にもなり、全国的にも有名です。一方、作楽神社内にある神楽殿という建物は、明治の末に川上音二郎が寄進した建物です。さらに創建百五十周年の昨年は、東京在住の歴史画家内田青虹先生から「十字の



詩」をテーマにした大作の絵を寄進していただきました。

私は、内田青虹先生がこの大作を描かれる動機に、忠義桜や児島高德の歌が大きく影響していること、川上音二郎に関する茅ヶ崎のトークイベントで作楽神社の動画を紹介していただいたことなどを紹介し、観光資源としての活用を提言しました。

一方、この度院庄では清眼寺踏切が改良され（これは、私がこの十五年間取り組んで来たことです）、牡丹のお寺清眼寺まで大型観光バスが入れるようになりました。これにより、作楽神社・清眼寺、名古屋山三郎のモデル名古屋九衛門が眠るにらみ合いの松を巡る約二時間のコースができます。

その後、お昼を鶴山公園等できり、津山城跡や自然のふしぎ館を見学すれば、津山の豊かな歴史と文化に一層興味を持つこ

とになり、さらに洋楽資料館で津山洋学や津山に関わる偉人の功績に親しんでもらえば、城東地区や城西地区を歩く大きなインセンティブになります。

これは、津山で一日過ごせるプランになります。私は、この一日過ごせるということが極めて大切だと思います。そのことが、観光消費額の増大につながるからです。そのためにも、津山市と観光協会が一体となった取り組みが重要です。

しかしながら、そのために中心となって活動すべき津山市版DMOの統括マネージャーが、新年度から不在のままです。私は、このことに関しても、積極的な対応と取り組みを強く求めました。

市長及び執行部の 答弁内容

市長からは、しばらくは予断を許さない状況下、細やかな状況の把握・分析のもと、的確な情報発信で感染防止に努め、国や県の手の届かないところまで支援したいという答弁がありました。さらに、拠点都市としての付加価値を高めるための政策推進のため「みらい戦略プロジェクトチーム」を中心に、目指すビジョンを示しながら取り組み、総合戦略も適宜見直すという答弁もいただきました。

また、そのような取り組みに寄与させるためにも、DXを念頭

に高度な情報通信網の早期整備に努めるという考え方も示されました。

教育長からは、東京学芸大学とのプロジェクトの進捗状況や、このことがコミュニティスクールへも波及効果が期待できることや、つなぐ力を育み、地域と一体となつて子供を育てる取り組みへの意気込みが示されました。

終わりに

私は、機を捉え必要な時に必要なことを大胆に行い、将来も津山が輝いていられるような施策、例えばスーパーシティ構想や国家戦略特区への立候補、幼少期から高等教育機関まで多くの人が津山を目指す位の教育の充実などを提言し、市長の強いリーダーシップの発揮を求めました。

今後も、津山の未来のために精進して行く所存です。変わらぬ、ご指導ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

